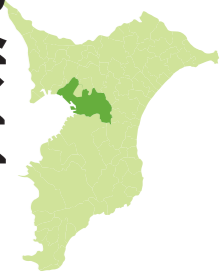


稲毛運送株式会社 の巻

(千葉市稲毛区)



新型コロナウイルス感染症の世界
的流行を受け、史上初の延期となっ
た「東京2020オリンピック・パ
ラリンピック」はコロナ禍での開催
となりました。制限の多い環境にあ
っても、日々努力を重ねた日本代表
選手の活躍は、世界3位となる58個
のメダル(金27個、銀14個、銅17個)
をもたらしました。また、パラリン
ピックでは、日本勢初となる金メダ
ルを獲得した競技もありました。



▲藤川勇祐社長

選手の活躍に読者の皆さまも勇気
と感動をもらったのではないでしょ
うか。



秋雨前線の影響を受け、厳しい残
暑から一転して秋の涼しい空気に覆
われた9月3日、新型コロナウイルス
S感染拡大防止のため中止していた
「事業所訪問 こんにちは健保組合
です!」の取材を再開しました。機
関誌創刊以来、休止は初めてのこと
でした(泣)。第78回の訪問先とし
て、千葉市稲毛区にある稲毛運送(株)
(藤川勇祐社長)を訪れました。本
社事務所は安産・子育ての神様で有
名な稲毛浅間神社にほど近いこと
ろにあります。

千葉市稲毛区は、区名の「稲」か
ら稲穂の実り・豊かさ・成長を連想

の構築とスキルアップに努めていき
たいとお話でした。

状況に合わせて
柔軟に対応することが
成長の鍵

次に従業員の教育やコミュニケー
ションについても伺いました。

「教育に関しては、定期的に社内
ミーティングを実施しています。現
在は、「密集」「密接」「密閉」の3
密対策を徹底するため、会議は参加
人数を減らして回数を増やし、ま
た、SNSを通じて、勤務体制に応
じて分けたグループでの情報共有や
動画を使用した危険予知に関する確



▲点検・整備を終え出発を待つトラック

「最近新型コロナウイルス感染症
の影響で従業員の皆とコミュニケー
ションをとる機会がなく、一堂に会
して和気あいあいと飲食を共にでき
ないことを寂しく思っています」と、
以前あった社内での忘年会や新年会
などの時節的な交流を懐かしむ一方
で新たな形を模索しています。

小さなこんごひ
「こんごひ」と頑張るこんごひが
健康への道

健康管理については、毎年、従業

するイエローがイメージカラーとな
っています。潮干狩りや海水浴客で
賑わい、多くの文化人が訪れた保養
地の名残をとどめる街として、また、
大学や高等学校が多く集まる文教
の街としての顔があります。

「こんにちは健保組合です!」と
事務所を訪ねるとご多忙にも関わ
らず、今回の取材を快く引き受け
ていただいた藤川社長に迎えてい
ただきました。藤川社長には、令和
元年11月より組合会議員として、健
保組合の運営にご尽力いただいでい
ます。

会社と従業員が
力を合わせて
コロナ過の難局を乗り越えた

稲毛運送は昭和36年6月に設立さ
れ、当時は大手企業などの荷役を請
け負っていました。初代社長の誠実
な人柄は順調に事業基盤を築き、着
実な事業展開を続けてきました。藤
川社長は平成20年4月に3代目とし
て就任。先代から引き継いだ事業を
拡大・発展させ、現在では大手自動
車メーカーの各種部品やエネルギー
関連製品の輸送を手掛けているそう
です。

員とその家族に健康診断の実施を
積極的に勧めているとのことでした。
検査結果から「要再検査」「要
精密検査」「要治療」などの判定が
出た場合は、必ず医療機関を受診す
るよう、社長自ら促すなど、まさに
健康経営を実施している様子が伺
えます。

また、自身の健康法については週
に数回のウォーキングと糖質を控え
た食事を心がけているとのこと。で
運動は、いきなり長距離・長時間の
ハードなメニューは行わず、少しずつ
増やすなど、時間を見つけてでき
ることから始めたそうです。

そのほかストレス解消は、地元の
方々と結成している「おやしバンド」
で、以前は人前で演奏を披露してい
たそうですが、今はコロナ禍で集ま
ることが難しく活動を休止している
とのこと。藤川社長のパートナーは暖か
い音色が特徴的なアコースティック
ギター。コロナ収束後の演奏会が待
たれます。



最後に、当健保組合への要望など
について伺ったところ、「健保が行
っている各種事業について、組合員

しかし、数多の荒波を乗り越えた
経営もコロナ禍により、いまだかつ
て経験したことのない困難に直面す
ることになります。昨年の第一波の
時点で、自動車の輸出減少や製造休
止などの影響を受け、受注件数の急
減に見舞われました。藤川社長は当
時を振り返り「私一人の力だけでは
厳しい状況を乗り越えられなかった
と思います。従業員が会社と一緒に
前を向いて進んでくれたおかげでこ
の難局に打ち勝つことができました

た。言葉では表せないくらいありが
たく、感謝の気持ちでいっぱい
です」と回想します。「全従業員とそ
の家族の物心両面の幸せを追求する
と同時に、『物流は経済の血流』と
認識し、経済および地域社会の進歩
発展に貢献する」が同社の企業理念
です。藤川社長の思いやりを忘れな
い経営姿勢と、その「思い」に応え
る従業員の方々の愛社精神が着実に
根付いているのだという印象を強く
受けました。

話は今後の経営ビジョンに及びま
した。その点については、取引先と
のつながりに重きを置いて、信頼関
係の強化と既存の事業継続、刻々と
変わるニーズに対応するための体制
に対して実施の必要性を分かりやす
く伝えてほしい」と貴重なご意見を
いただきました。健保組合として
は、藤川社長のお言葉を真摯に受け
止め、今後も組合員の皆さまと健保
組合の距離が少しでも縮まるよう、
努めてまいりたいと思います。

こやかに対応する藤川社長への
インタビューは次々に新たな話題に
展開していき、あつという間に終了
予定の時間を迎えてしまいました。
藤川社長をはじめ、従業員の皆さ
ま、ご協力ありがとうございました。
稲毛運送のますますのご活躍と
発展を祈念しています。

【後記】

長く続くコロナ禍でワクチン接種
が進み、わずかに収束の兆しが見え
始めていますが、依然として厳しい
状況は続くことでしょう。そんな時
だからこそ、一人一人が周りの人を
思って行動することがより重要にな
るのではないのでしょうか。

本誌がお手元に届くのは秋から冬
に季節が移ろうころです。読者の皆
さまも感染症対策を講じながら健康
第一にお過ごしください。